

仙台まちづくり若者ラボ 2024

参加者アンケート

市民局 市民協働推進課

アンケートの概要

「仙台まちづくり若者ラボ 2024」参加者に対するアンケートを実施し、令和6年度事業の振り返りと来年度に向けた改善点を検討するもの。

■回答期間：令和7年1月17日(金)第4回ワークショップ～1月31日(金)17時

■回答数：32人 ※メンター3人含む

(【参考】事業参加者数:42人/メンター:6人)

■参加者属性：年齢 18歳から33歳（10代:16人 20代:24人 30代:2人）

職業 学生:28人 社会人:14人

■回答方法：せんだいオンライン申請サービス

■備考

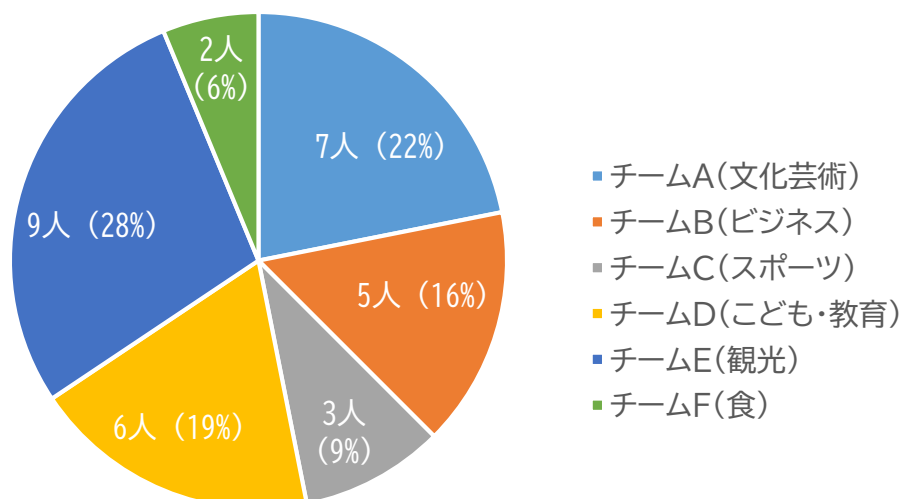
- 設問の回答方法が自由記述の場合、基本的に原文ママ掲載。ただし、「特になし」という回答については掲載していない。

アンケートの設問 及び 回答

お名前

※掲載しません

Q1 所属しているチームを選択してください。

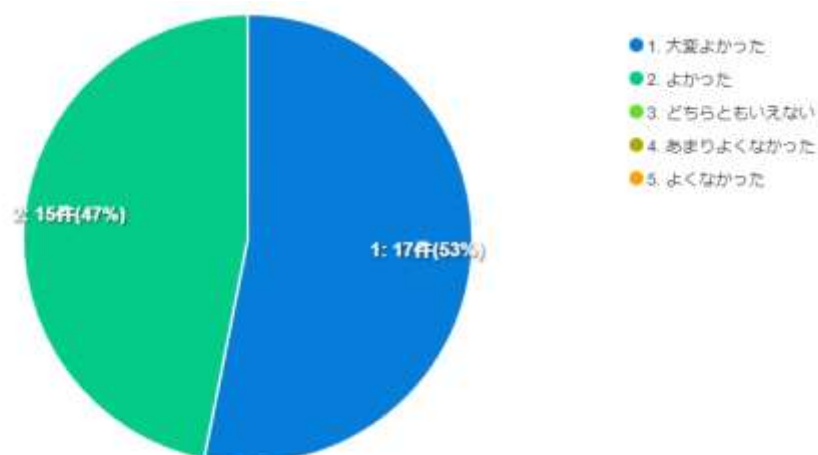


Q2 若者ラボ全体に対する参加満足度を教えてください。

- 事業参加者数の約7割がアンケートに回答しており、全チームの参加者から回答がなされている。
- 回答者のうち「大変よかった」と回答した人が17人(53%)、「よかった」と回答した人が15人(47%)であり、その他の回答を選択した人がいなかったことから、若者ラボ全体に対する参加満足度は高いと言える。

【参考】チームごとの「大変よかった」と回答した人数

チームA(文化芸術) 4件/7件、チームB(ビジネス) 4件/5件、チームC(スポーツ) 1件/3件、
チームD(こども・教育) 5件/6件、チームE(観光) 1件/9件、チームF(食) 2件/2件



Q3 前設問の回答について、理由を教えてください。

「大変良かった」の理由

(学生)

- 私自身、参加する前より教育に対する知識が身に付いた。フィールドワークを通じて、様々な施設に行き、仙台市には教育と関連している施設が多くあるということに気づけた。また、半年間という短い期間で初対面の人たちでアクションまで行うということを全チームが行っており、このような経験がない私は衝撃を受けた。
- テーマのビジネスについて、知らなかったことを知ることで学ぶことで、今まで持っていたイメージを良い方向に変えることができたから。
- イベント開催までできるとは思っていなかったからです。最初はメンバーの興味関心が分かれていて、うまくまとめたアクションを開催できるか不安でした。フィールドワークでそれぞれの関心に合った場所に行き、その後のアクション検討で「小さなつながり」という共通項を見つけ、イベント開催まで繋げることができました。
- このラボに参加したことで自分自身の成長に繋がりました。チームの皆さんが様々な場で活躍されている方が多くて、新しい繋がりが出来ました。チームの皆さんの活動に対する姿勢を見て、私もこんな人たちになりたい、という憧れを持つことができ、尊敬出来る方たちに出会えたことが何より良かったです。
- 街を盛り上げたいと思っていてもなかなか行動に移す機会がなかなかなかったが、この若者ラボを通して実際に行動をおこすことができ、良い機会になったと感じるから。
- 私は元々デザインに関心があったのですが、それを実践する場がありませんでした。今回の若者ラボの文化芸術チームでは Instagram の投稿デザインを任せていただけることになり、とても貴重な体験をさせていただきました。
- 1人では実行しようと思えなかったことも、チームの人で協力することによって強制的に行うことができた。さらに、1人では浮かばないアイデアもみんなで考えるとたくさん出てきた。
1人では勇気がないことも、みんなでならやってみようと思えた。
- 自分が興味のあるまちづくりに関する活動をすることができたから。
- 普段接点を持たない人たちと、目標を立てそれに向かって半年間完走することができたから。
- 半年間の中で、自分以外の価値観や考えを知る良い機会になりました。学べることが多くて、楽しみながら参加出来ました。
- 学生だけでなく社会人の方のものの見方も知れたことで良い経験になったから。
- 普段の生活では関われないような人達と関わる機会を得ることが出来たから。
フィールドワークやアクションプランの活動が楽しかったから。
- フィールドワークの機会があり、普段しないインタビューや起業家さんにお話を伺えたから。また初めて会う方のつながりができたから。

(社会人)

- 前回のラボよりも参加者が増え、交流が活発だったため。
- 自分にできることを何かやってみたいという漠然とした思いで本プロジェクトに参加したが、予想以上

に充実した時間を過ごせた。

- 同じ若者で、まちづくりに興味のある人がこんなにたくさんいることに気づくことができたのが一番の収穫です。また、同じチームのメンバーと交流を深めることができたのも良かったです。
- 若者ラボの活動がきっかけとなり、サードプレイスがたくさんできました。

「良かった」の理由

(学生)

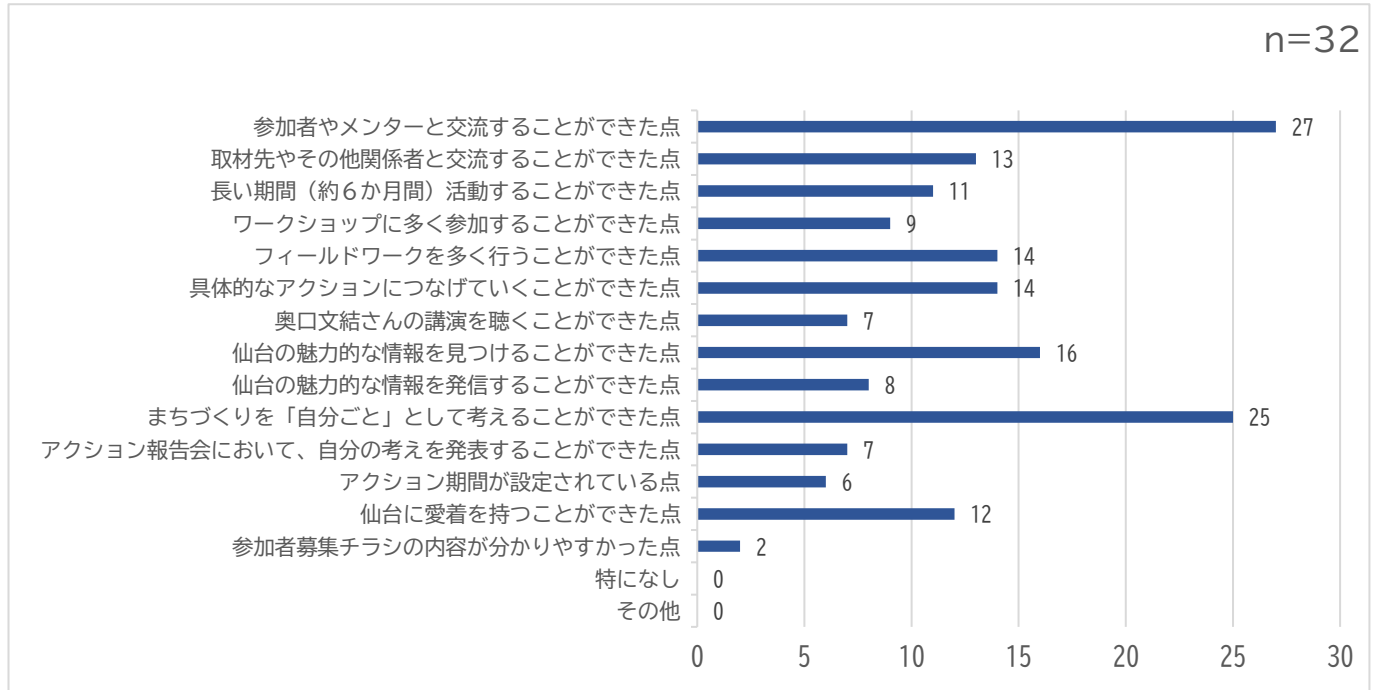
- 今まで同じ分野に興味を持つ人と集まることができなかったのが新鮮だった。
フィールドワークとアクションのどちらもすることができたので良い経験になった。
- 様々なバックグラウンドの人達と出会うことと、イベントというものがどのように運営されているのか体験しながら観察するという当初の目的は十分に達成できた。しかし、チームミーティングの日取りがなかなか合わないとか、マイクやカメラオフで参加している人がいることが多かったことからディスカッションやアイデアの練り上げがあまり満足にできず、チームとして良いアクションをつくりたいという願望は十全には叶わなかった。とはいえ、時間やチーム全体まとめてでの活動のしにくさといった制約の中でもミーティングの進行は全体的に見れば深く考えたものになっていたし、チームを分割して少数でならアクションを起こしやすいという気づきを得られたりと、収穫はあった。また、アクションもなんとか形にはなった。苦労はあったし、成果も満足いくものではなかったかもしれないが、学びは多く得られたので、概ね満足している。
- 様々な人と出会い、まだ行ったことない仙台市内の観光地に行きました。
- 毎回の活動に積極的に参加することができたので満足している。
- このまちづくりラボに参加しなければ知ることのなかったお店等に出会うことや、やることのなかったことをすることが出来たと感じたから。
- 自分が参加しながらも様々な観光地に足を運んで仙台の良さに触れることができました。新しい場所に行って友達に紹介するなど充実した活動になりました。
- 普段は関わらないような人と関わることができた。

(社会人)

- メンバーが毎回ほとんど全員参加で活動することができた。メンバーがよく学んで成長していた。
- 仙台市をより良くしたいという気持ちをもつ同志がいることを知ったから。
- 「できたこと」も「できなかったこと」もとても貴重な経験となりました。
- 多様な年代、価値観を持つ方と活動し、普段の仕事では味わえないような議論、活動ができた点が良かったです。
- 新たなメンバーといろいろな探索やフィールドワークが出来たから。
観光についてあまり考えたことがなかったので、改めて考える機会を得られたのは良かった。
- 知らない観光地を知れたので良かった。
- 学生から社会人まで一緒にチームで活動できて良かったです。
- 意識の高い若者と出会えたこと。一からアクションを作り上げられたこと

Q4 若者ラボの良かった点をお教えてください。(複数選択可)

- 「若者ラボの良かった点」として、回答者の半数以上が「参加者やメンターと交流することができた点」、「まちづくりを「自分ごと」として考えることができた点」、「仙台の魅力的な情報を見つけることができた点」を挙げられている。



Q5 前設問の回答について、補足等があればご記入ください。

(学生)

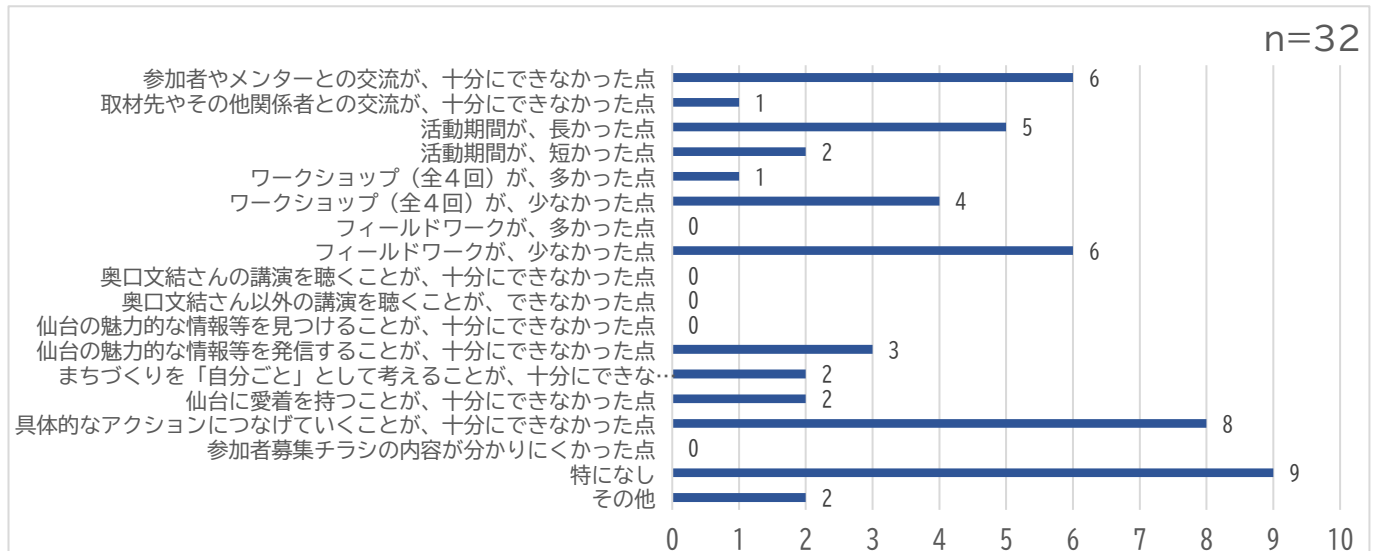
- 初対面の人たちを半年間でアクションまでいくことは不可能ではないかと思っていたが、実際に活動してみて、チーム内で絆が出来、メンターのアドバイスがあり、スムーズに活動することができた。

(社会人)

- チーム分けに使用するコンテンツが抽象的で良くも悪くもチームの統一感を出すことがとても難しいと感じた会だと感じた。

Q6 若者ラボの良くなかった点を教えてください。(複数選択可)

- 「若者ラボの良かった点」に対する回答の選択数と比較すると、「若者ラボの良くなかった点」についての回答の選択数は少なく、「若者ラボの良くなかった点」は「特になし」の回答数が一番多い。
- 「若者ラボの良くなかった点」としては、「具体的なアクションにつなげていくことが、十分にできなかった点」、「参加者やメンターとの交流が、十分にできなかった点」「フィールドワークが、少なかった点」などが回答されている。



「その他」の回答内容

- アクション報告会において、講評者に若者ラボの意義や目指す先が十分に伝わっていないように感じました。
- 予算が少なかった。

Q7 前設問の回答について、補足等があればご記入ください。

(学生)

- 全てのことが良い経験となりました。
- 他のチームと進捗報告をしあって、課題を全体で共有したり解決方法を考えたりできたらよかったと思う。アクションの報告でスライドを作ること以外の指示があまりなく、アクションを考えるためのヒントとなるようなワークショップや思考方法などを運営側から出すことで、バックグラウンドがばらばらだったりで活動に困っているチームに助け船を出せるのではないかと考えていた。
- アクションの中間報告みたいなワークショップが1回あってもいいのかなと思います。

(社会人)

- チーム分けに使用するコンテンツが抽象的で良くも悪くもチームの統一感を出すことがとても難しいと感じた会だと感じた。
- 期間やプロジェクトの内容共に丁度良かった。
- 良くも悪くも活動期間が長かった印象です。

主体的に動けるメンバーが複数人いれば、期間が長い分とても素晴らしい活動となりますが、受け身なメンバーが多いチームでは、一部のメンバーにタスクのしわ寄せがあったり、メンバー同士の方向性が合わないなど弊害もありました。

長期のプランと短期のプランがあっても良いかもしれません。短期プランに参加してさらに長期に挑戦したい人は、移動できるなど。

大前提として、スタート前から参加者のやる気度を見極めるのはとても難しいと思います。関係者の皆様お疲れ様でした。

- 観光というテーマが絞られており、かなり難しいと感じた。(どうしても仙台市以外の場所の名所が多くでてきた)

テーマの広げ方には少し苦労した。

- 連絡手段を要検討する必要があった。
- 自分の時間がなく活動時間が十分取れませんでした

Q8 若者ラボでは、事業の周知広報のチラシなどを配架しているほか、当課 SNS「Team マチカツ！【仙台市】(Instagram 等)」なども活用して情報発信を行っています。また、当課と関係のある大学の先生方に学生への周知をお願いするなど個別のお声がけをしています。より学生や若手社会人などの若い世代の方々の目に触れる効果的な広報の手法にアイデアがあれば教えてください。

(学生)

- 大学から連絡がくるサイト(日々仙台市のイベントも連絡がきます)から大学の全学生に案内があると、もっと若い世代の目につくと感じた。
- 大学の掲示板または電子掲示板に情報を掲載したり、学内メールで全体に送信してもらう。
- 参加者の口コミ。
- 参加者のその後の活躍を追い、就活に生かせることをアピールする。
仙台市から大学の学生支援センターに連絡し、(東北大なら学務情報システムのような)メールでの広報を行ってもらう。
- インスタグラムだったら閲覧者に簡単に見られるように動画は 30 秒以内に作成し、より活性するために閲覧者との反応(いいね、ボタン押す、ミニ選択クイズ、記述されているリンクアクセスさせてゲームやらせるなど)が有効だと思います。そして私、外国人としては英語、様々な言語と動画に上映されている方が多様にしていただけたらいいなと思います。
- Instagram のストーリーを見ていると、よく広告が流れてきて、それきっかけで知る情報だったり興味なんかもあるので、若者をターゲットにした広報ならこういうのも効果的なのではないのでしょうか。
- TikTok などを使うのもいいと思う。
多分位置情報を携帯に入力してる人はその地域の TikTok が自然と流れてくるので、目に留まりやすいと思う。
また、広告する際に、「就活で役立つ！」など、参加すると自然と自分に有利になりそうなことで目を引くのもいいと思う。
- メールを送る。Instagram で広告を出す。学校にポスターを貼る。学校で宣伝してもらう。

- 私も大学でお話を聞く機会がありこの活動のことを知ったので、大学にこのような活動があると紹介することは今後も続けていくべきだと思います。
- 学内メールでの広報、参加者から周囲への広報をお願いする（後輩に宣伝するなど）。
- 大学の生協に広報の依頼をしてみたり、Instagramのリールでいつでも見られるようにすれば良いと思いました。

（社会人）

- 活動が単位に含まれたり、既存のサークル活動の延長線として取り組めると、参加ハードルが下がるかなと思います。
- 個人的な感覚ではありますが、まちづくり関係者は Facebook を活用しているイメージがあるため、Facebook を使ってみても良いのかなと思いました。あとは、Instagram の広告からイベントに参加したこともあるので、それも良いのかなと思います（既に実践されていたらすみません?）
- インフルエンサーの活用。

Q9 若者ラボに参加申込を行う前に、不安に思ったことや、事前にこういう情報を知っていたら良かったと思うことがあれば教えてください。

（学生）

- 具体的にどのような感じで行われるのかイメージがつかず、実際に活動するまでは、とても不安だった。もっと詳細が書いてあると参加してみたい！と感じる人も多くいるのではないのでしょうか。
- 「半年間やりきれるかな」という不安がありました。
- 同じチームになった人たちと仲良く出来るか不安でした。でも実際は最後までチーム一丸となってやり遂げることが出来たし、貴重な体験でした。不安に感じている人たちには、こういった声を聞いてもらうのがいいと思います。
- 支給してもらえる予算がいくらまでか。
過去の参加者の活動例。
- 初対面の人達としっかり話し合いをすること出来るのか。
- どんな人たちが集まるのか、メンターはどんな人なのか。
- 過去のアクション例やフィールドワークなどの実施例
- テーマがざっくりしすぎて分かりにくかったため、過去のテーマに似たものがあれば参考例をあげて欲しいと思いました。

（社会人）

- 社会人の数。
- 正直初めてチラシを見た際に、学生向けのプロジェクトに感じる為、社会人でも一歩踏み出しやすい広報が必要かも。
- メンター側の意見として、メンターという立場がどこまで活動の方向性に関与していいのか指針があるとありがたかったです。他のチームを見ているとメンターよりけりなので。
- 参加者の方の属性や、その割合の過去実績などが分かれば嬉しいなと思いました。

- フィールドワークがどのくらいになるのか知りたかった。
- 社会人と学生で話があうのか気になった。
- どういう人が来るのかわからない。

Q10 実際に若者ラボに参加した中で、負担や不安に感じたことがありましたら、どのようなことか教えてください。

(学生)

- どこまで自分で動いていいか最初は分からなかった。まだ大学2年で社会経験がないため、フィールドワーク先にどこまで事情（若者ラボについて）を話していいのか分からなかった。
- チームミーティングの際、カメラとマイクをオンの状態で参加してくれる人が少なく、意見の収集や合意形成に苦労した。
- 学業との両立が難しくなったタイミングがありました。しかし、チームメンバーの理解のおかげで、一定期間だけ不参加にしてもらい、乗り切れました。
- 各グループによって熱量が全く異なること。
- アクションの講評が厳しくて驚いた
- 若者ラボの後半に修士論文作成、発表、大学の最終の作業などと同じタイミングなんですが、両方ががんばって全力で乗り越えました。
- 完全に自主性に任されていたところが、少し不安であった。
- 取材の方法があまり分からなかった。
- 日程調整が上手くいかないことが多くあったような気がしました。

(社会人)

- 学生のみなさんとのスケジュールの調整が難しかった
 - 概ね良い内容だったのですが、毎回ワークショップで集まった際に、ほとんどの時間が講演や各グループの発表を聞くための時間に充てられていたのが気になりました。(アクションについてチーム内で議論する時間は20分、その他の時間は仙台市の取組みを聞いたり、他のグループの発表やそれに対してのフィードバックを聞く、という回がありました。)ほとんどのグループが、発表しなきゃいけないからとりあえず急いで結論を出した、みたいになっていたように思います。なかなか個々に時間を合わせるのが難しい中で集まれる貴重な機会なので、他のグループの共有は他の方法で別日に行い、もっと話合わせる時間を取る方が良いと思います。
 - 参加者に「メンターなのに全然動いてくれないな」と思われていたかもしれないという不安があります。
 - テーマがなかなか大きいチームだったので、ひとつのアクションにまとめ切るのが難しいなと感じました。子ども・教育というよりかは、子どもでもいいのかな？と思ったり、
 - 活動がメンターの特色に染ってしまい、本当に参加者たちがしたいと思った活動が出来ているのかという点は常々悩んでいた。
- また、参加者の熱量のばらつきがあり、それを上手くまとめられなかったことは反省している。

Q11 9月に開催した第3回ワークショップからアクション報告会までアクション期間を設けました。アクション期間の良かった点や改善点などがあれば教えてください。

(学生)

- アクション期間があったため、これまでフィールドワーク先で得た知識や経験を思う存分活かすことができた。また、チーム内の団結力がより高まった。しかし、アクション期間から報告会までの期間が短かった。
- 仙台市の紹介などが長くワークショップで話し合いの時間が短くなってしまい話し合いがあまり進まなく次のアクションの詳細がそこまで深く考えることができなかったことがありました。話し合いの時間がもう少し取ることができたらいいと思いました。
- アクションプランを考えることや実行計画を立てることに難儀していたので、どこかに他チームとの意見交換会や、運営からプランニング等のサポートを得られる仕組みがあると助かったかもしれない。
- 他のチームがどんなアクションをしているのか知りたかった。可能であれば、アクションのイベント等に参加してみたかった。
イベントを開催するには、広告など集客や場所の選定などを考えると難しかった。この考えもあり、イベントの開催を前向きにできなかったところもあった。
- 期間が分けられていることで、いつ何を行ったら良いのか明確になったと感じます。
- アクション期間としてはちょうどいい期間でしたが、チームのメンバーそれぞれの予定が合わせるのが難しかったです。1回しかアクションができなかったのも、もっと2・3回アクションをして、回数を重ねてみたいと思いました。しかし、十分満足したアクションができたと思います。
- 皆さんと一緒に仙台の遠くて面白い隠れている最高な観光地を見つけて行きました。
- チームでミーティングをしてアクションを考え実行できた点はとても良い点だと考える。しかし、アクションプランの期間をもう少し長くしていただけるとまたさらに中身の濃いアクションプランができるのかなと思う。
- 改善点としてはアクション期間にはいつすぐアクションが起こせなかったことがすこし心残りです。全体が目指すべき方向性やInstagramでの投稿テーマを決めるのに時間がかかってしまって、すぐの投稿には漕ぎ着けることができませんでした。
- モチベーションが下がってきて、活動に参加する気が落ちていたので発表までの期間を目の当たりにすることでもう少し頑張ろうと、気を引き締められた。
- ちょうど良いと思った。
- 今までに自分たちが訪れた観光地を他の人に案内することができて良かった。
- アクション期間があることで良い限りになり、フィールドワークやアクションの計画を立てやすかった。
- アクション期間が長く設けられていたため、考える時間が多く案をみんなでだしあう事が出来たことが良かったです。
- なかなか計画的に進めなかった。オンラインミーティングでアクション準備を進めていたが、話しづらさなどもあり、スムーズにできなかった。アクション期間に途中経過を確認するための対面でのミーティングを行えばよかった。
- 期間は長くて良かったが、その時期に縛られすぎて夏にも出来たら良いようなアクションを行うことが出来ないと感じたので通年を通してアクション期間を設けても良いと思いました。

- ほどよい期間でそれまでに何をしなければいけないか考えながら動けた。報告資料までつくると、あっという間のアクション期間だった。
- アクション期間が長かったため、行いきれていない活動をする事ができたのは良かった点なのかなと思います。
- 他のチームの声を踏まえて、各々のチームでいったん持ち帰り精査できて良かったです。
- 自由に活動できたためみんなと協力しながら楽しむことができました。
- アクション期間が結構長かったのでメンバーと予定を合わせることが出来てよかったと思う。

(社会人)

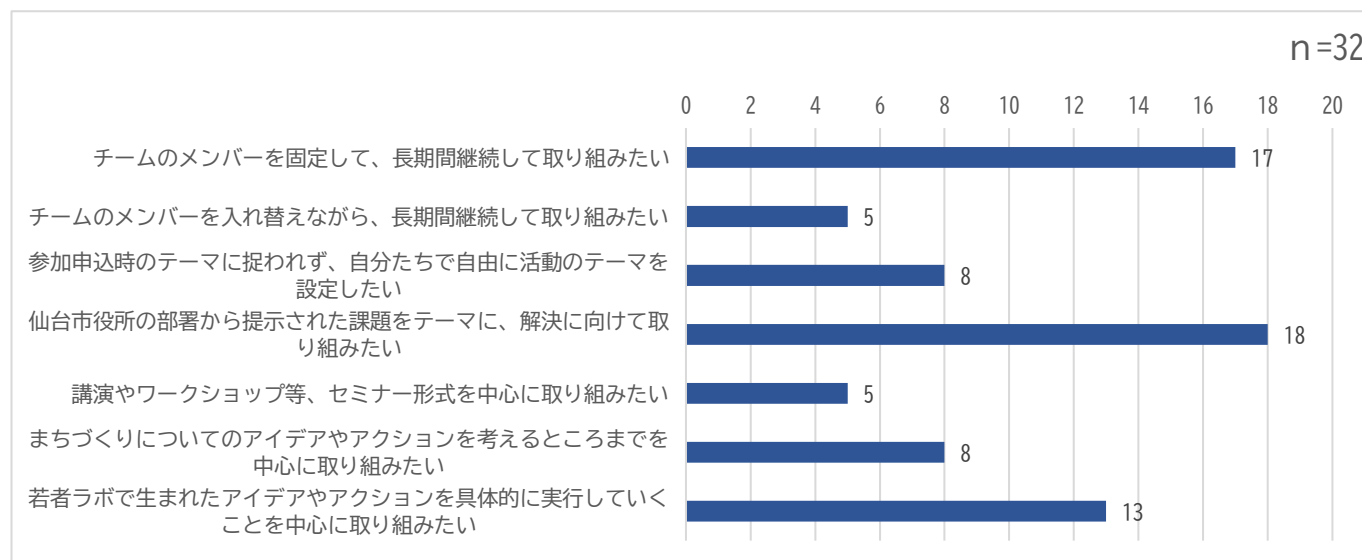
- 自分が参加者として参加した際には最初報告会でアクションプランをお話し、後にアクションを実施する形でした。その後、期間内にアクション終了するように変わったのは目的が明確になり、よかったと思います。
- アクションでイベント運営を企画したが、期間が短かった為に広報活動が大変だった。
- 仕事が忙しかったという言い訳は極力控えたいが、若者ラボに取り組む余裕が自分自身なかった。
- 強制的に「何かをしなければいけない」という雰囲気になったのは、結果につながって良かったです。一方で、果たしてこれは主体的なのかなと思う気持ちもありました。
- しっかり長い期間空けていただいたので、アクションに集中できました。
- 自分たちのチームがなかなかアクションプランまでに具体的な方向性が見えなかったのもありますが、なかなかカツカツのスケジュールになってしまったので、そこが残念でした。他のチームがどのように連携を取っているかなど9~10月時点でもう少し知れたら良かったな~と思います。
- アクション期間中の打ち合わせなどがなかなか出来ず、アクションの日程調整が上手くいかなかったりした。これについては私も反省です。

アクション期間中1回ワークショップを挟む、運営とチーム毎の打ち合わせなどが挟まれると活動が明確になり、活動しやすかったかもしれないと思った。

- アクション期間は、お題を自分ごとと考える時間が増えた。
- 期限が決まっており、集中して取り組めた。

Q12 あなたが来年度の若者ラボへの参加を検討する場合は、どのようなプログラムだと参加したいと思うか、ご意見・ご感想を教えてください。（複数選択可）

- 約半数が回答したのは「仙台市役所の部署から提示された課題をテーマに、解決に向けて取り組みたい」「チームのメンバーを固定して、長期間継続して取り組みたい」。続いて、「若者ラボで生まれたアイデアやアクションを具体的に実行していくことを中心に取り組みたい」の回答数が多かった。



Q13 前設問の回答について、補足等があればご記入ください。

（学生）

- 活動期間が短く、単発のイベント（アクション）を行って、終わりになってしまった。本当はそこから得たことをまたアクションを行い活かせる所までいきたかった。
- まちづくり若者ラボのセミナー編なども面白いと思った。そこで、チームの垣根を越えた参加者の対話の時間があつたらいいと思った。
- スポーツチームで行ったアクションプランのプロギングをもう一度開催してほしいといった声もあり、もう一度開催できたら良いと考えているのですが、情報発信等のサポートのご協力をしていただけないかなと思いました。
- 限られた予算のなかでできるアクションはどうしても小規模なものになってしまうので、もうすこし規模を大きくして、より多くの人に若者ラボの活動を知ってもらい、若者の仙台での活動を活発にできるのが理想です。

（社会人）

- せっかくなので、OBOGのような方々と話せる機会があると嬉しいです。

Q14 若者ラボに参加してきた中で、楽しかったことがあれば、どのようなことが「楽しい」と感じましたか。

(学生)

- 自分のチームメンバーはもちろん、若者ラボ参加者と交流する時間があり、自分の知見が広がった。また、ここに参加しなかったら触れなかったような活動もできたため、とても良い時間だった。
- 話し合いの時間や話し合ったことの共有をする時間が楽しいと感じました。
- 大学やライフステージの垣根を超えて様々な人と協同、交流できたこと。
- 起業家さんへのインタビューや街頭インタビュー、イベント参加、インスタ投稿など自分1人だったら、なかなかやろうと思えないことや勇気がでないことができたこと。
チームメンバーと就活や大学、悩みなど活動以外のこともたくさん話して交流できた、つながれたこと。
- チームのメンバーと仲良くなれたこと。
イベントで、開催側も参加側も笑顔になれたこと。
- フィールドワークを重ねた上で、実際にアクションをした時が1番楽しかったです。
- 仙台を盛り上げたいという一つの意味をもってイベントを実際に開催できたこと。
- 生まれ育った仙台という街の魅力は自分の中では分かっていたつもりでも、いざグループでディスカッションをしてみると、自分が気づけなかった仙台の魅力もあって、愛着がより湧いた気がします。
- チームのみんなとチームだけの話し合いを重ねて、協力していろんなことに挑戦できたこと。
チームの人たちがとても優しかったので、やらしかたがあっても罪悪感を引きずることなく次の活動へとモチベーションを保てた。
- メンバーと出会えたこと。フィールドワークでたくさんの人に出会えたこと。
- フィールドワークで様々な観光地にチームメンバーと訪れることができて楽しかった。
- メンバーはもちろん、普段接点を持たない人たちの熱い想いを聞いたこと。
- 交流をする機会が中々ないので、違う考え方に触れたり、みんなで考えながら取り組むことが楽しかったです。
- 社会人の方の考え方を知ったり、他のチームの方の活動を見て刺激をもらったこと。
- 交流出来たことが楽しいと感じました。少人数で交流を行うことは大学では進んで行っていなかったのに楽しいと感じた。
- 地域の人と交流できて、興味を示してもらえたとき。

(社会人)

- 色々な人と関われる。
- 実際にイベントを企画して、運営まで出来たこと。
- みんなの仕事の話、プライベートの話を聞いている時。
- 普段接することのないような世代の方々の価値観に触れられたこと。
- メンバーと個人的にご飯に行ったり、フィールドワーク先に一緒に行ったりできて楽しかったです！人脈が増えたことが個人的には一番嬉しかったです。
- メンバーとの活動は基本的に楽しくできたと思っている。
- マイナーな観光地にいけて楽しい！

Q15 参加申込時に、みなさんから「まちづくり」のイメージについて伺いました。若者ラボに参加する前と参加した後で「まちづくり」のイメージについて、自分の考えが変わったことなどがあれば教えてください。

(学生)

- 最初のイメージは漠然としていて、今思えば全然具体的ではなく、誤った認識のところもあった。しかし、参加してみて、実際に活動して経験することで、より深く知ることができ、具体的にイメージすることができた。
- 最初はまちづくりと聞くとどのような建物を建てるかや区画整理のようなものが頭に浮かんでいたが、今はそこに人と人がどのように関わりをもっているかも加わっている。
- 仙台のまちの新たな魅力を発見したこと。活動前は、仙台のビジネスと聞かれて何も答えられない、分からなかった。しかし、活動を通して、起業支援機関が多数あることや仙台で起業されて地域に根差した活動をされている方のことなど分かる、話せるようになりました。
私の人生では永遠に縁がないと思っていた起業が、一生のうちにやってみたいこと、人生の選択肢になったこと。
インスタグラムでの情報発信、投稿に少し適性があることに気づいたこと。
- 参加前はまちづくりといえば行政のイメージでした。フィールドワークを通して、仙台市にはこんなにもたくさんの市民活動やボランティア活動があることを知り、驚きました。学生のうちから、社会貢献活動を通してまちづくりの一環を担うことができると感じました。
- 「まちづくり」の具体的なイメージが湧かず、どのような活動をするのか分からなかったが、若者ラボに参加したことで、仙台市の様々なテーマでの課題を見つけて、それぞれでどんな解決策があるか、考えること自体から「まちづくり」に含まれていると感じました。
- より完璧な町を発展させる。
- まちづくりという具体的な目標を明確にしなくてはならず、行動に移すのが難しいと考えていたが、仙台をスポーツを通して盛り上げたいというようなちょっとした意思でも街に貢献できるのだと実感した。
- 参加する前のまちづくりに対するイメージは堅苦しい、そんなイメージを持っていたけど、実際は全然そんなことなく、自分たち次第でなんでも出来るし、簡単なことからでも始められるものだと気づくことが出来ました。
- ある程度お金がないと、大きな規模でまちを変えることは難しいということを知った。
- このまちづくりラボに参加するまではまちづくりは行政で行うものというイメージがあったが、このイベントに参加してからは個々人が自由に地域の良さを見つけて発信して行くものという感じに、まちづくりを身近に感じる事ができた。
- 考えるだけではなく、それを実行することの大切さがわかりました。
- 様々な分野があると知り、いろいろな方向からアプローチできるものだとわかった。
- 特に変わらなかったです。
- まちづくりは大きなことではなく、自分一人でも仙台のことを考えることがまちづくりであると思った。
- 身近なものに感じられた。

(社会人)

- まちづくりの幅の広さ
- 参加者を見て、仙台の若者に、こんなにまちづくりに興味がある人材がいるのだなと思いました。
- 自分が行動すれば、身近にまちづくりに関わることがたくさんある！
- この活動を通じて、「街を作るのは人」というのを強く感じました。実際に利用される人がどう感じるか、どう使うのかを考えながら街を作っていくことが重要だと思いました。
- 個々人が意識するもの、と思っていましたが、みんなで一緒に楽しみながらやるもの、に考え方が少し変わりました。
- マイナーな観光地ほど背景のストーリーを知らず、魅力が訴求できていない。

■参加者の“まちづくり”のイメージに対する心理的変容の確認

下記の2つの時点において“まちづくり”のイメージについて回答いただき、若者ラボに参加する前と後で、同一の参加者の回答を比較することで、参加者の心理的変容について確認した。

①参加申込時（参加前）[R6.5/29～6/21] 設問 ※必須回答

「まちづくり」について、どのようなイメージをお持ちですか？（率直にお答えいただいて構いません）」

②第4回ワークショップ開催後の参加者アンケート（参加後）[R7.1/17～1/31] 設問 ※任意回答

「参加申込時に、みなさんから「まちづくり」のイメージについて伺いました。若者ラボを含めて、仙台市役所の事業に参加する前と参加した後で、「まちづくり」のイメージについて、自分の考えが変わったことなどがあれば教えてください。」

(学生)

①参加申込時（参加前）	②参加者アンケート（参加後）
● 行政が行っているというイメージ	● 身近なものに感じられた。
● まちづくりは人それぞれ考えていることが違う、ちょっとしたことでもまちづくりというと思う。	● まちづくりは大きなことではなく、自分一人でも仙台のことを考えることがまちづくりであると思った。
● 人と人をつなげる役割を持つもの。	● 特に変わらなかったです。
● 積極的に活動することで、地域を盛り上げ、様々な人に地域に対して関心を持ってもらえるもの。	● 様々な分野があると知り、いろいろな方向からアプローチできるものだとなった。
● まちづくりをすることは大変であると感じるが、まちの活気がでることである	● 考えるだけではなく、それを実行することの大切さがわかりました。
● この街を良くしたいという思いが強い人たちが集まり、活動している。	● まちづくりの領域は広く、色々な活動がまちづくりとして、仙台に貢献できるとわかった。
● 地域を活性化させていくもの。	● このまちづくりラボに参加するまではまちづくりは行政で行うものというイメージがあっ

	たが、このイベントに参加してからは個々人が自由に地域の良さを見つけて発信して行くものという感じに、まちづくりを身近に感じることができた。
● 地域課題を見つけ、解決策を考え実行し、解決してまちを良くしていくイメージ。	● ある程度お金がないと、大きな規模でまちを変えることは難しいということを知った。
● 結果どうなるのかわからないまま、まちづくりの構想を練るのは難しいイメージ。	● 参加する前のまちづくりに対するイメージは堅苦しい、そんなイメージを持っていたけど、実際は全然そんなことなく、自分たち次第でなんでも出来るし、簡単なことからでも始められるものだと思えることが出来ました。
● 自分たちの暮らす地域を良くしていくことだが、簡単ではなくいろいろな要因が関連していて難しいイメージ。	● まちづくりというと具体的な目標を明確にしないでではなく、行動に移すのが難しいと考えていたが、仙台をスポーツを通して盛り上げたいというようなちょっとした意思でも街に貢献できるのだと実感した。
● この町は将来にどんな町になろうか、なにかがあるか、という疑問じっくり考えて実現するために一歩ずつ活動をする事です。	● より完璧な町を発展させる。
● 堅苦しいイメージはなく、誰でも参加できて楽しいイメージ。ボランティアとビジネスの中間のような、まちのために協力したいという慈悲の活動と、まちの課題解決のために利益を得たいという営利目的の活動の 2 つの側面を持った活動、というイメージ。	● 「まちづくり」の具体的なイメージが湧かず、どのような活動をするのか分からなかったが、若者ラボに参加したことで、仙台市の様々なテーマでの課題を見つけて、それぞれでどんな解決策があるか、考えること自体から「まちづくり」に含まれていると感じました。
● 政策としては公務員が主導で行うが、住民の協力が欠かせないものであり、住民個人個人が生活の様々な場面で貢献することができるもの。	● 参加前はまちづくりといえば行政のイメージでした。フィールドワークを通して、仙台市にはこんなにもたくさんの市民活動やボランティア活動があることを知り、驚きました。学生のうちから、社会貢献活動を通してまちづくりの一環を担うことができると感じました。
● 行政が主体となって行っているものもあれば、まちをより良くしたいと考えている個人や組織の方々が行っているものもたくさんあるというイメージを持っています。しかし、私自身は情報を上手く得ることができず、知らないものが多いと感じています。	● 仙台のまちの新たな魅力を発見したこと。活動前は、仙台のビジネスと聞かれて何も答えられない、分からなかった。しかし、活動を通して、起業支援機関が多数あることや仙台で起業されて地域に根差した活動をされている方のことなど分かる、話せるようになりました。私の人生では永遠に縁がないと思っていた起

	業が、一生のうちにやってみたいこと、人生の選択肢になったこと。 インスタグラムでの情報発信、投稿に少し適性があることに気づいたこと。
● 町の賑やかさ。	● 最初はまちづくりと聞くとどのような建物を建てるかや区画整理のようなものが頭に浮かんでいたが、今はそこに人と人がどのように関わりをもっているかも加わっている。
● 「まちづくり」とは、地域住民や行政が協力して住みやすく魅力的な街を作るための努力をすることだと考える。これには、公共施設の整備や緑化活動などのインフラ整備、環境保護の規制やコミュニティ活動の促進を目的としたルールやガイドラインの設定が含まれていると感じている。また、地域の様々な団体や住民が共通の目標に向かって協力し、地域イベントの開催や問題解決のための共同プロジェクトを行っているイメージがある。	● 最初のイメージは漠然としていて、今思えば全然具体的ではなく、誤った認識のところもあった。しかし、参加してみて、実際に活動して経験することで、より深く知ることができ、具体的にイメージすることができた。

(社会人)

①参加申込時（参加前）	②第4回ワークショップ終了後（参加後）
● 地域活性化の火種となる行い。	● マイナーな観光地ほど背景のストーリーを知らず、魅力が訴求できていない。
● ワクワクすることです。	● 個々人が意識するもの、と思っていましたが、みんなで一緒に楽しみながらやるもの、に考え方が少し変わりました。
● 市民の皆様の生活に直結するスケールの大きな取り組みですが、その分関係者が多いため、泥臭い努力・調整が必要なものだと感じます。自分たちの力だけでなく、テナント様や地域の皆様に支えられて初めて、物件として、また街としての価値を創出できていると日々感じております。（※抜粋）	● この活動を通じて、「街を作るのは人」というのを強く感じました。実際に利用される人がどう感じるか、どう使うのかを考えながら街を作っていくことが重要だと思いました。
● 魅力的なまち、素敵なまちには人々の賑わいがあります。「まちづくり」とは、その賑わいを創出することであり、人と人とのつながりを生み出すものだと思います。	● 自分が行動すれば、身近にまちづくりに関わることがたくさんある！
● 人の活気。	● まちづくりの幅の広さ。

Q16 今年度の若者ラボでは「A:文化芸術、B:ビジネス、C:スポーツ、D:こども・教育、E:観光、F:食」の6つのテーマをもとに活動しています。来年度も活動テーマを事前に設定する場合に、興味・関心を持って取り組めるテーマとしてあったらいいと思うものがあれば教えてください。

- 関係人口
- 多文化共生
- 食かビジネスかなと思います
- 若者の人口流出を防ぐためにはどうすればよいか
仙台をもっと魅力のある都市にするためにはどうすればよいか
- 観光などと被るかもしれませんが、賑わい創出、コミュニティなどのワードがあると良いなと思いました！
- 娯楽、交通
- 移住定住、アントレプレナー、起業、フードロス
- メディア
- 文化芸術のテーマがざっくりしすぎていると感じたので、もっと複数に分けて良いと感じました。(文芸、アニメ、映画、歴史など)
- 国際
- 人、場所、自然

Q17 来年度の若者ラボを開催するにあたり、若者ラボに参加された先輩として、初めて若者ラボに参加しようか迷っている方の背中を押す応援メッセージをお願いします。

(学生)

- 絶対成長できます！たくさんの人と交流ができます！参加して後悔することはありません！！
- 若者ラボに参加して仙台市をもっと好きになることができました。仙台市をより身近に考えることができ、半年間で自分自身の成長も感じるすることができます。ぜひ挑戦してみましょう！
- 参加しようか迷っている理由が先の予定が見えないことや体力に不安があるというようなことであり、参加できないわけでないなら、参加しちゃった方がお得です。
- 参加してみたい、活動してみたい気持ちさえあれば、大丈夫です。知識も経験もいりません！一緒に活動しながら学んでいきましょう！
- 私は知り合いを誘わず、思い切って1人で申し込んでみました。学生だけでなく社会人の方もいらっしゃいますが、対等にお話できる雰囲気、アクション報告会後にはご飯にいくほど仲良くなっていました！迷ったら参加してみてください。
- 自分自身の成長のためにも仙台市のためにも良い経験になると思います。
- 仙台若者ラボはすごくいい機関なのでご遠慮なくぜひ参加してみてください。
- 仙台を盛り上げたいという気持ちがちょっとでもあれば是非参加してみることをおすすめします。自分の視野が広がるし、自分のふと思いついた意見がチームの軸となったり、仙台を盛り上げる良い手段になったりするので、思ったことはどんどん自分の言葉でチームの人たちに共有してみてください！（個人的にふと思いついたランニング×ゴミ拾いのプロギングがチームの活動軸になり、こんなに他チーム

のみなさんが興味を持ってくれるとは思っていませんでした、笑)

- 最初はまちづくりとはなにか正直分からなくて不安もあったけど、半年間活動を終えて、若者ラボに興味を持っている人に送りたいメッセージは、「迷っているなら参加しよう！」この活動は自分を成長させてくれたし、自分の育った仙台という街をもっと好きになることが出来ました。
- チームとのかけがえのない思い出が作れます。
あまり思うように行かないこともあり、話し合いを進めても結論を出さない時もあります。
でもその瞬間も、今振り返るととっても大切な思い出です。
- たくさんの人と出会い、成長できます！迷ったら参加してください！
- 最初は初対面の人達としっかり話せるかなと不安に思うと思うのですが、メーターの方達がしっかりとサポートしてくださるので楽しく話し合いができます。
- 普段接点を持たない人たちと高めあい、「自分ごと」という考え、意識が芽生えますよっ
一瞬の勇気が良い刺激を生むよっ
- 自分たちで目標を設定して実行するのが多い活動なので知らないことを知れるし、何より楽しいです。
- 仙台の魅力を知るだけでなく、学生と社会人が交わりながら活動することで様々な考え方を学ぶことができます。自分の成長に直接的につながる活動が多いのでぜひ参加してほしいです。
- 半年でも頑張れば良い経験になるし、たくさんの人と交流の機会を得ることができると思います。
- 仙台のことを自分ごととして考え、行動できる良い機会なので、迷ってるなら参加したほうが良いと思います！
- いろんな知見をもつ人に会えるし、交流にもなるよ！
- 様々な人と出会える良い機会になると思います。少しでも興味があれば一度はチャレンジしてみてもいいと思います。
- 参加することにより様々な場面で話す話題にもなるため参加してすることをお勧めします。
- 堅苦しいものと思われがちですが全然そんなことはないです。基本的に楽しいことが多いなと私は感じました。普段関われないような人たちと関わることができるいい機会でもあると思います。

(社会人)

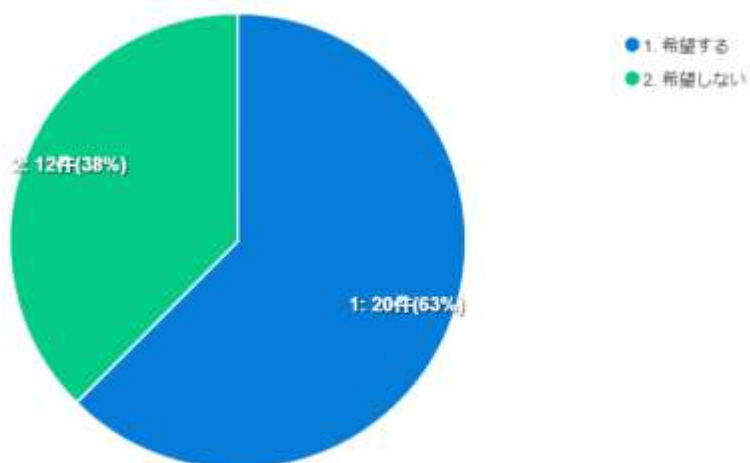
- 楽しいです！！
- 他の大学や社会人の新しい仲間に出会えます。
- 迷ってるならやってみる。やらない後悔より、やって後悔。でも、絶対に後悔しません。
- 学校や仕事が忙しくても、本気で取り組んだ分だけ自分のためにもなるし、楽しいと感じる。
- どこまで関わるかは、人それぞれ。気楽にぜひ参加してみてください。
- 参加するまでは不安かと思いますが、いざ参加してみると、サポート体制も充実していますし、色々な方の価値観に触れることができるととても楽しいと思います！
- 同世代とまちづくりについて考えることができ、実際にまちでのフィールドワークやアクションを行うことができます。学生だけではなく社会人や色々なルーツを持った人と交流することができるため、自分の幅が広がります。
- 意外と最終的には形になるので、とりあえず参加してみよう！
- 応募当時、私はメンタル不調で休職しておりました。たまたま通っていた図書館でポスターを見かけて、

「やってみたい」「サードプレイスになるかもしれない」「仕事とは全然関係ないけど、いかせることがありそうだ」と思い、応募しました。結果的に、年齢や職業は異なるけれど、同じような思いを持ったメンバーと出会うことができました。さらに、活動を通してたくさんの方々の人生経験等 聞く機会があり、勉強になったり、新たな活動の場ができたり、何より、心身ともに元気になりました。

気になったら、思い切って応募して欲しいです！

- 特に社会人になると仕事や家庭のことで手一杯になり、自分の住んでいる地域の街づくりに携わる機会は減ると思います。だからこそ、こういった場に参加することで、学生と社会人の双方の視点から地域に関わることは、とても貴重で有意義だと実感しました。
- 迷っていたらとりあえずやってみること。飛び込んでみることに。忙しくてもなんとか？なりました。

Q18 今後、本市が実施するまちづくりに関する事業について、参加申し込み時に記載いただいたメールアドレスへ参加者募集等の情報を送付させていただきたいと考えています。送付希望の有無をご回答ください。



Q19 最後に、若者ラボに対するご意見・ご感想や、仙台市役所が行う「若者が活躍するまちづくり」に期待すること等があれば、自由にご記入ください。

(学生)

- このような機会を設けてくださりありがとうございました。仙台市の魅力（施設や市民）をより身近で体験することができました。普段関わることがない、他大学の学生や社会人と関わって、とても有力な情報を得ることができ、ネットワークを広げることができました！
- 今回、若者ラボに参加して自分がやりたいと思っていることを改めて考える機会になりました。これからも自分にできることを探し続けたいと思います。ありがとうございました。
- インスタグラムや市政だよりで情報を得て、イベントなど参加することが多いので、そこからの情報発信をぜひ積極的をお願いします。
- もしよかったら今年の若者ラボにも参加したいと考えているので、ワークショップ等の開催日程が決まったら是非教えてください！
- もっと若い世代がまちづくりに興味を持って貰えるようなイベントがたくさんあるといいと思う。

- 若者の活躍例などがあると、みんなの背中を押せると思います！
- アクション報告会で、どのチームも発想がすごくて刺激を受けることが多かったです。なので、若者がもっともったこのような活動をして実行してまちづくりができれば良いなと感じました。

(社会人)

- 来年も参加したいです！
- 参加する学生と社会人が出来ることはある程度限られていると思います。決められた時間の中で、参加者のアイデアをカタチにするためにも、仙台市役所として何が出来るのか予め提示いただけると、無理だなと思っていたことでもそれを用いてこんなことができる！となるかもしれません。仙台市役所として我々のアイデアをカタチにする際、何が難しいかをご教示くださる方がグループにいらっしやると楽なのかなと思いました！
- 子育て関連のまちづくりワークショップに参加してみたいです。
- これからも色々な人が参加できるこのような場を作っていただけると、とても良いなと思います！私も次は運営側で関わってみたいので、お声がけいただけるように頑張ります！！